

番号	9	平成29年度公共事業再評価調書		担当課名 河川海岸整備課		
事業名	広域河川改修事業		事業主体	静岡県		
箇所名	いっきゅうかせんこうるいがわ・いっきゅうかせんでんぼうさわがわ 一級河川小潤井川・一級河川伝法沢川		関係市町村	富士市		
事業採択年度	平成 24 年度		計画期間	平成24年度 ~ 平成43年度		
用地着手年度	平成 28 年度		工事着手年度	平成 29 年度		
再評価理由※	河川整備計画策定(H24)後5年間に経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H27年度	H28年度	H29年度見込	計
	3,384		119	50	100	269
事業概要	<p>(1)事業目的 築堤、掘削、護岸工等の河川改修により、河川整備計画に位置付けられた10年に1回程度発生すると想定される規模の洪水を安全に流下させ、小潤井川及び伝法沢川流域の浸水被害の解消を図る。</p> <p>(2)事業内容 河川改修：延長2,400m（築堤工、掘削工、護岸工）、落差工 2箇所、橋梁工 13橋</p>					
【視点1】	(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 平成15年7月洪水（床上1戸、床下31戸）や平成26年洪水（床下3戸）などで、家屋浸水被害が発生している。なお、平成27年3月には伝法沢川・横堀川調整池（県単独事業）が完成し、河川水位低下に一定の効果が発現しているものの、依然として河川本川の治水安全度は低く、流域住民からの河川改修に対する要望も強い状況である。					
事業の必要性	(2)事業の投資効果 B/C=9.66（総便益：26,205百万円、総費用：2,710百万円）					
	(3)事業の進捗状況 小潤井川の本川改修に係る橋梁の調査設計及び橋梁架け替えに伴う関係機関調整等を進めており、平成28年度から本川改修の下流端である津田橋架け替えに必要な物件補償に着手した。平成29年度からは津田橋の架け替え工事に着手する。					
	平成29年度末進捗率	事業費	7.9%	(269百万円/3,384百万円)		
		事業量	0.0%	(0m/2,400m)		
	評価	継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない				
【視点2】	平成29年度から津田橋の架け替えに着手し、平成33年度に完了予定である。今後も河川改修に伴う橋梁架け替えが多数あることから、計画的な調査及び関係機関との調整を進めていく。					
今後の事業の進捗の見込み	また、現場は沿川に住家や店舗が連担しており工事を円滑に進めるためには地域の理解と協力が不可欠であることから、綿密な地元調整を行い、工事の確実な進捗を図っていく。					
	評価	継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない				
【視点3】	新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性					
	掘削による発生土を他事業に流用し、コスト縮減を図る。 今後の詳細設計・施工計画においても、引き続き、コスト縮減対策を検討していく。					
対応方針(案)	(1)対応方針(案) 本事業を（継続）・見直し後継続・中止）する。					
	(2)理由 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められる。地域住民の期待も大きく、浸水被害を解消するため、事業継続とする。					

費用対効果算出説明書

一級河川小潤井川・一級河川伝法沢川
 (「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省河川局 平成17年4月)

総括表

総便益 B	[治水事業を実施しない場合の被害額]－[治水事業を実施した場合の被害額]+[施設の残存価値]	262.05億円
総費用 C	[建設費]+[評価期間内に必要な維持管理費]	27.10億円
B/C		9.66

総便益

○治水事業の有無による被害額の差分 年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間70年(整備期間20年+50年)とし、現在価値化する。
○施設等の残存価値 評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。
総便益 $B = \sum \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n$ $= 261.89\text{億円} + 0.16\text{億円}$ $= 262.05\text{億円}$

- ※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。
- ※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。
- ※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

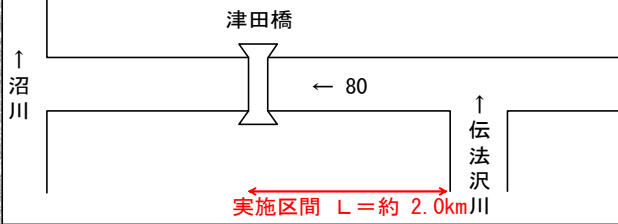
総費用

○事業建設費 各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。
○評価期間内に必要な維持管理費 各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。 建設費の0.5%/年、評価対象期間：70年
総費用 $C = \sum \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n$ $= 24.25\text{億円} + 2.85\text{億円}$ $= 27.10\text{億円}$

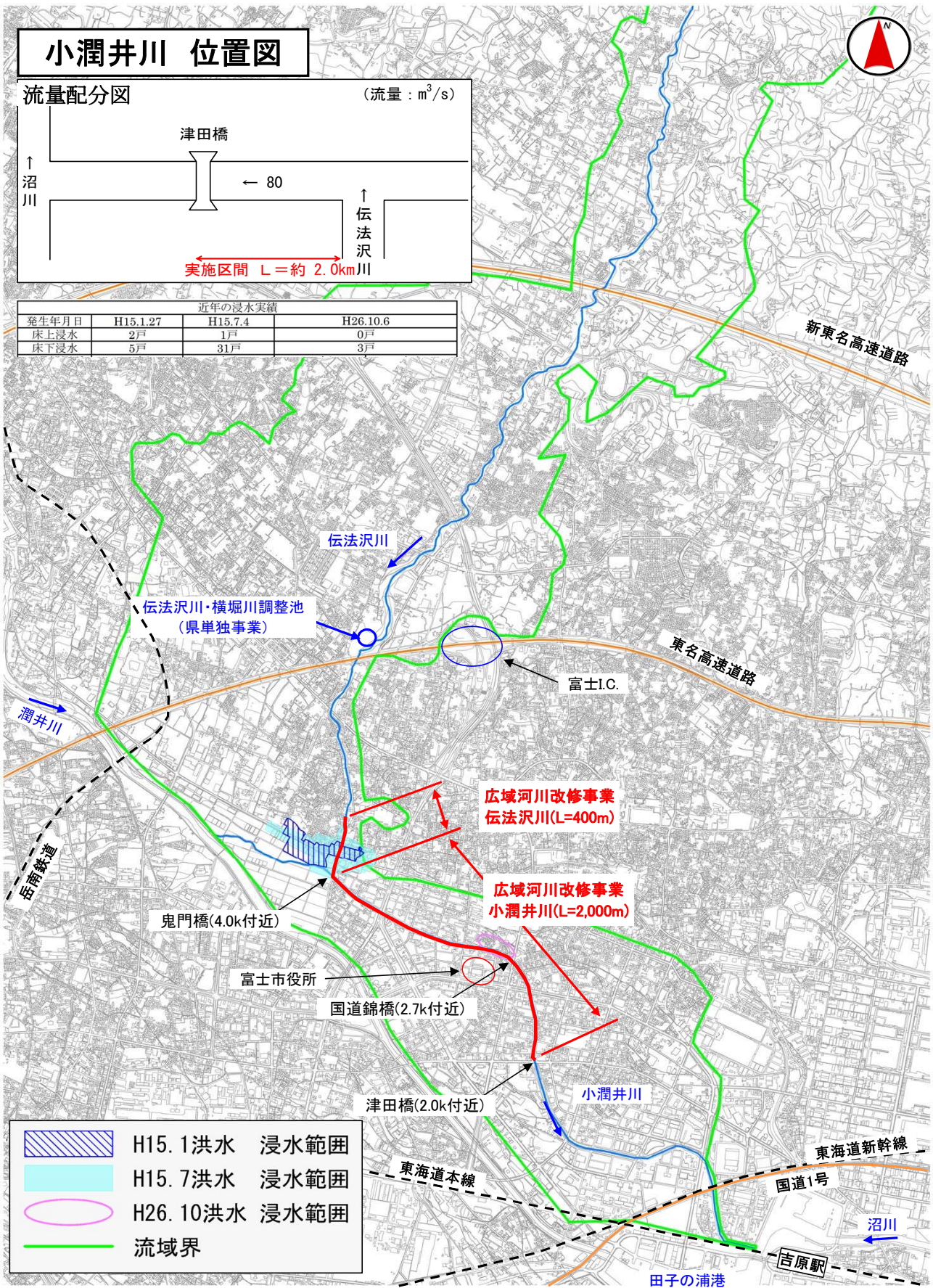
小潤井川 位置図

流量配分図

(流量 : m^3/s)

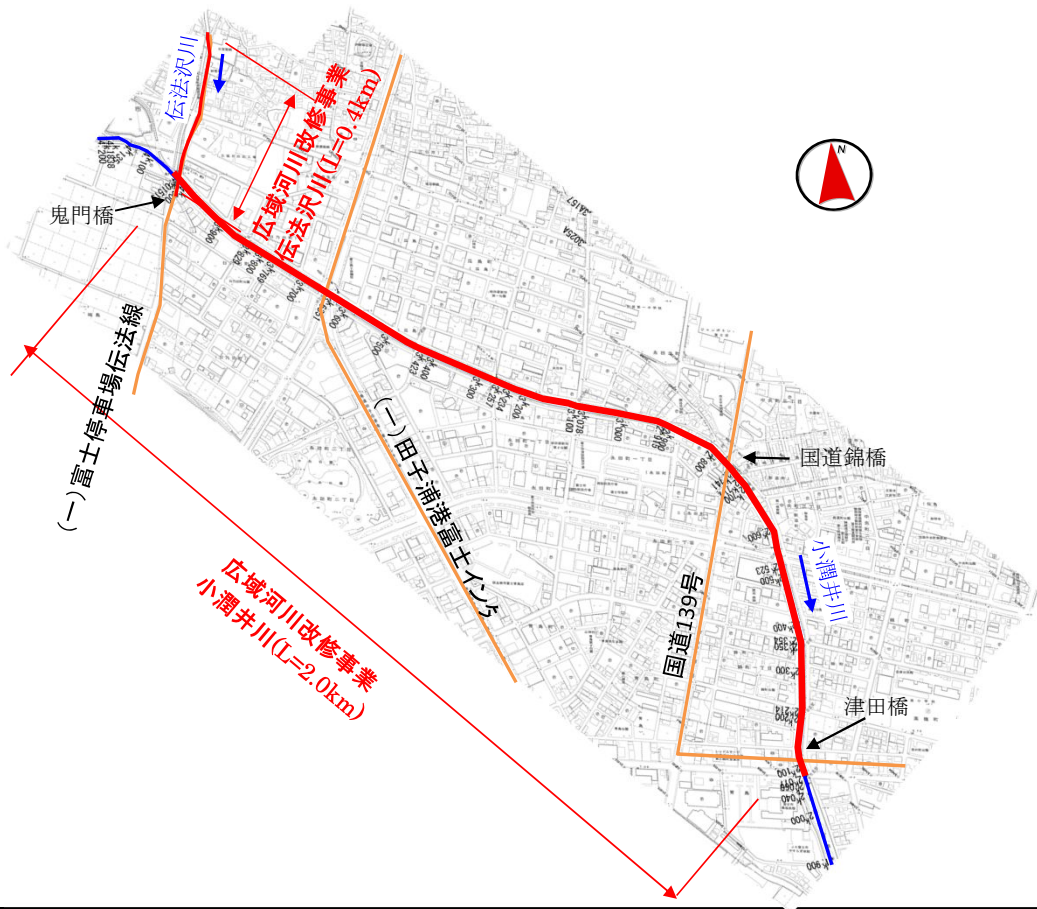


近年の浸水実績			
発生年月日	H15.1.27	H15.7.4	H26.10.6
床上浸水	2戸	1戸	0戸
床下浸水	5戸	31戸	3戸



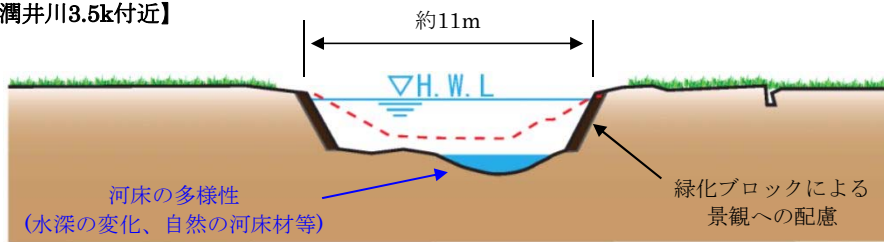
	H15.1洪水	浸水範囲
	H15.7洪水	浸水範囲
	H26.10洪水	浸水範囲
	流域界	

概略平面図



標準横断面図

【小潤井川3.5k付近】



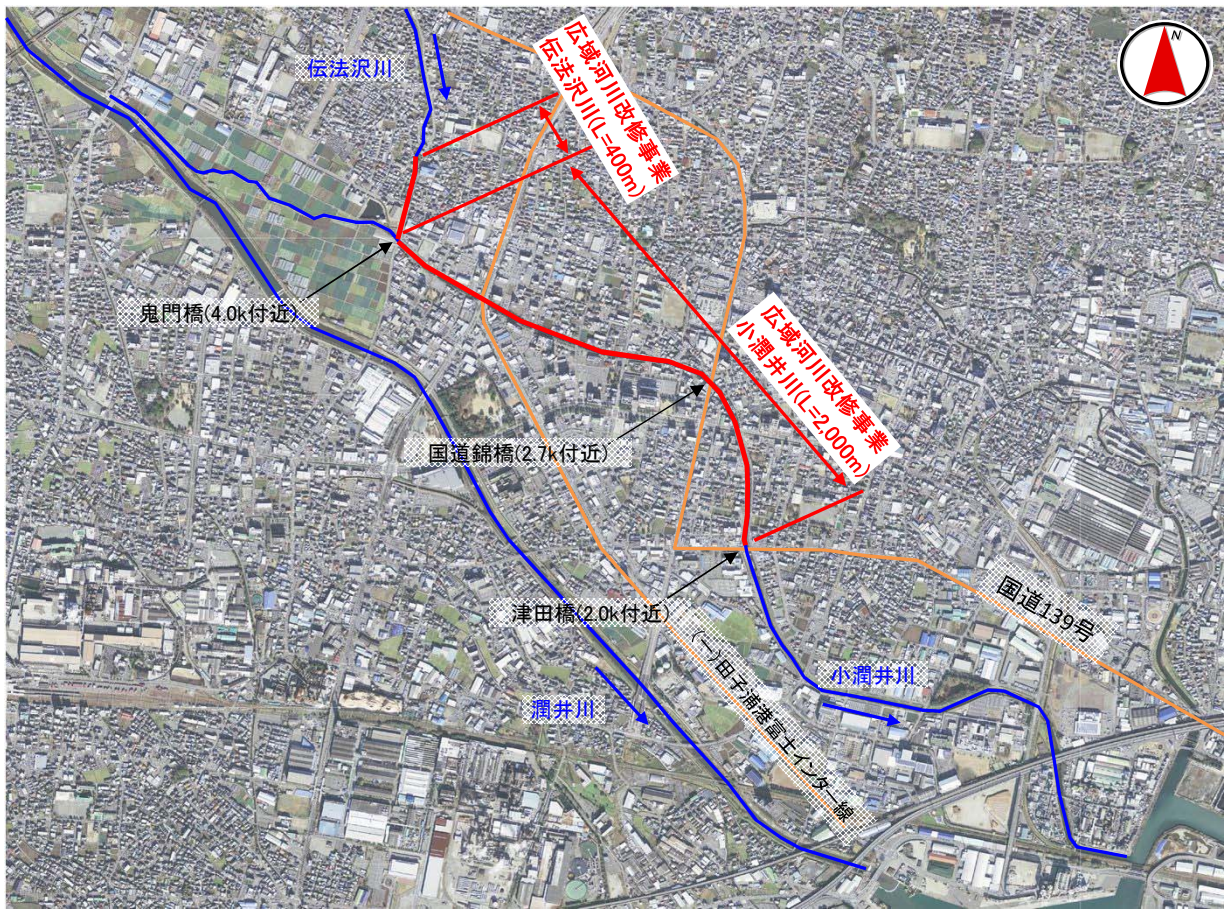
【整備計画区間(2.0k付近：津田橋)】



【整備計画区間(3.2k付近)】



航空写真



浸水被害写真



①H15.7洪水浸水状況(伝法沢川右岸)



②H26.10洪水浸水状況(国道錦橋周辺)

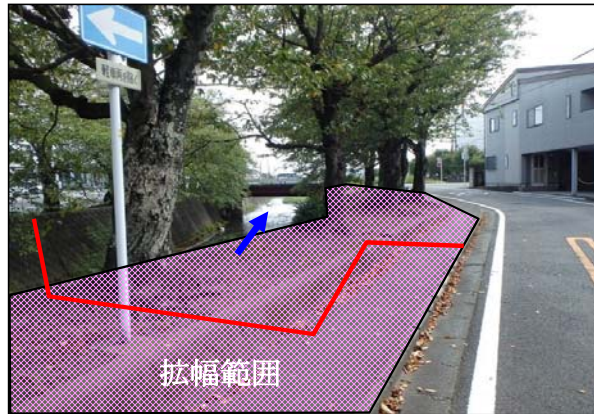


③H26.10洪水浸水状況(永田北町)

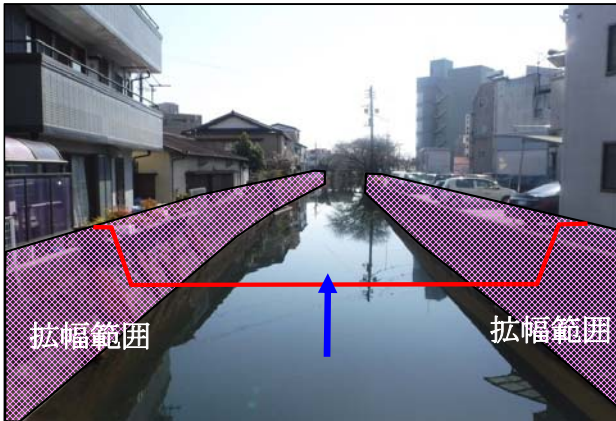
未改修区間の現況写真



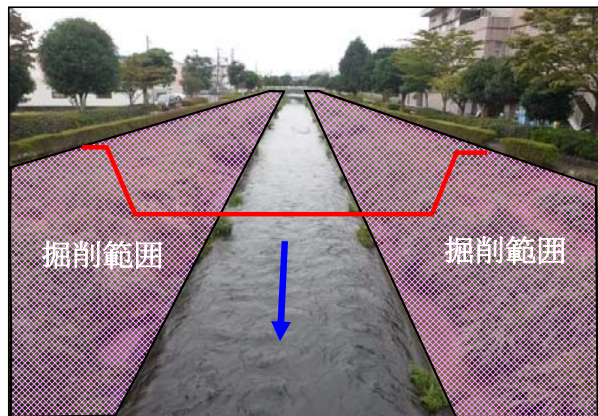
河道改修区間(津田橋周辺)



河道改修区間(2.1k付近)



河道改修区間(2.7k付近)



河道改修区間(3.2k付近)